

# Society for Neuroscience 46th Annual Meeting 参加報告

広域科学専攻 生命環境科学系  
四本研究室 修士2年 田中涼介

この度、広域科学専攻の「修士・博士課程海外渡航助成」を受給し、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴで行われた Society for Neuroscience (SfN) 46th Annual Meeting に参加してきました。SfN は神経科学分野における世界最大の学会で、年次大会には 30,000 人を超える参加者が集います。

今回私は、SfN の"Sexual Differentiation"のポスターセッションにおいて、浜松医科大学・国立成育医療研究センターと共同で行っている性分化疾患患者の脳構造に関する研究の発表を行いました。性分化疾患とは、遺伝的な原因によって非定型的な性の発達が生じる先天性の疾患群を指します。その患者では、外性器等の性徴だけではなく、「脳の性分化状態」も非定型的な発達を遂げているということが、行動の観察等から示唆されてきました。本研究では、進化認知科学研究センター所属の MRI 装置を用いて性分化疾患患者と健常ボランティア群の脳画像を撮像し、詳細な統計的比較を行うことで、「脳の性分化状態」と呼ばれるものの実態を明らかにすることを目指しています。

SfN での発表では、普段は接点の少ない分子生物学系や医学系の研究者ともディスカッションができたのが、大きく学際的な学会ならではの新鮮な体験でした。また、脳画像データの解析手法に関する最先端の動向についても学ぶことができたのは、大きな収穫でした。加えて、光栄なことに、今回の私の発表は SfN が毎年プレス向けに発表している"Hot Topic"として選ばれました。

他にも、知り合いの研究者との交流や、多岐にわたるセッションへの参加を通じて、普段の自らの研究のスコップを超えた神経科学全体の Zeitgeist を感じる事ができたのは、今後の研究方針を考える上でとても良い体験になったと思います。修士論文の提出までもうあまり日がありませんが、今回の経験を活かして研究を更にブラッシュアップしていくつもりです。

